



# ベトナム戦争は終わっていない

～30年後の枯れ葉剤被害と国際支援の現状～



## シンポジウム

---

阿原成光経済経営学部教授の企画によって、和光大学総合文化研究所主催シンポジウム「ベトナム戦争は終わっていない～30年後の枯れ葉剤被害と国際的支援」が2005年7月7日（木）16：30～18：30に、和光大学J棟401教室（Jホール）で開かれた。

企画趣旨は、以下の通りであった。ベトナム戦争終了から30年たった今も、当時米軍から散布された枯れ葉剤の影響により、ベトナムでは心身に障害を持った子どもたちが生まれている。ベトナム戦争はまだ終わっていない。今日からみた、枯れ葉剤の影響について検証する。また、被害者の未来を築くために、日本からも「ベトナム友好村」などさまざまな援助活動が行われている。その活動を紹介した。

当日は最初の話題提供者として、ミー・ドアン・タカサキ My Doan-Takasaki（明治学院大学国際平和研究所研究員、ベトナム・ダラ大学非

---

和光大学総合文化研究所主催 シンポジウム

# ベトナム戦争は終わっていない

～30年後の枯れ葉剤被害と国際支援の現状～

2005年7月7日(木)16:30～18:30

場所：和光大学

J棟401教室(Jホール)

報告：ミー・ドアン・タカサキ My Doan-Takasaki

(明治学院大学国際平和研究センター、ベトナム・ダラ大学講師：生理学)

『ベトナム戦争と枯れ葉剤による人体の被害』

報告：阿原成光 (和光大学経済学部教授：英語教育・平和教育)

『枯れ葉剤犠牲者のための「ベトナム友好村」の支援と交流』

コメント：内田正夫 (和光大学総合文化研究所助手：化学史)

『化学からみた枯れ葉剤の毒性』



常勤講師：生理学)が『ベトナム戦争と枯れ葉剤による人体の被害』“Vietnam-America war and Agent Orange problems”と題して、英語で、スライド約50枚を使ってベトナム戦争の経過を紹介し、そこで米軍によって使用された枯れ葉剤被害の実態にせまった。次に、企画者でもある、阿原成光(和光大学経済学部教授：英語教育・平和教育)が『枯れ葉剤犠牲者のための「ベトナム友好村」の支援と交流』と題して、枯れ葉剤被害者への国際的支援施設「ベトナム友好村」の由来と支援活動を紹介した。その後、指定討論者である内田正夫(和光大学総合文化研究所助手：化学史)から『化学からみた枯れ葉剤の毒性』についてコメントがあった。伊藤は当日の司会を行った。以下に、話題提供者の主要な報告部分を掲載する。